



営農タイムリー！



令和4年11月の病害虫発生状況について

2022年 11月28日発行

京都府病害虫防除所より、
11月の病害虫発生状況について発表がありました。

作物名	病害虫名	11月発生状況
ホウレンソウ	<ul style="list-style-type: none">・ベと病・アブラムシ類・ヨトウガ・シロオビノメイガ・ハダニ類	<p>平年比多い</p> <p>平年並 平年並(発生を認めず) 平年並(発生を認めず) 例年並(発生を認めず)</p>
キャベツ	<ul style="list-style-type: none">・ベと病・黒腐病・菌核病・アブラムシ類・モンシロチョウ・コナガ・ハスモンヨトウ・ヨトウガ・ウワバ類・アザミウマ類	<p>平年並(発生を認めず) 平年並(発生を認めず) 平年並(発生を認めず) 平年比やや少ない 平年並(発生を認めず) 平年並(発生を認めず) 平年並(発生を認めず) 平年並(発生を認めず) 平年並(発生を認めず) 例年並(発生を認めず)</p>
ダイコン	<ul style="list-style-type: none">・黒斑細菌病・白さび病・アブラムシ類・コナガ・ハスモンヨトウ・ハイマダラノメイガ	<p>平年並 平年並(発生を認めず) 平年比やや少ない 平年比やや少ない 平年並(発生を認めず) 平年比やや多い</p>

作物名	病害虫名	11月発生状況
カブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ベと病 ・軟腐病 ・黒斑病 ・白斑病 ・白さび病 ・アブラムシ類 ・コナガ ・ハモグリバエ類 	<p>平年比少ない(発生を認めず)</p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p>平年並</p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p>平年比やや少ない</p> <p>平年並</p> <p>平年比やや少ない</p>
ネギ	<ul style="list-style-type: none"> ・さび病 ・黒斑病 ・ベと病 ・えそ条斑病 ・アブラムシ類 ・シロイチモジヨトウ ・ハスモンヨトウ ・ネギハモグリバエ ・ネギアザミウマ 	<p>例年並(発生を認めず)</p> <p>例年並(発生を認めず)</p> <p>例年並(発生を認めず)</p> <p>例年並(発生を認めず)</p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p>例年並(発生を認めず)</p> <p>例年並(発生を認めず)</p> <p>例年比 やや少ない</p> <p>例年並</p>
キュウリ (施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベと病 ・炭疽病 ・うどんこ病 ・斑点細菌病 ・褐斑病 ・モザイク病 ・灰色かび病 ・アブラムシ類 ・ハダニ類 ・ハモグリバエ類 ・アザミウマ類 ・コナジラミ類 ・ハスモンヨトウ ・ワタヘリクロノメイガ 	<p>平年並</p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p>平年比 やや少ない</p> <p><u>平年比 やや多い</u></p> <p>平年並</p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p>例年並(発生を認めず)</p> <p><u>平年比 やや多い</u></p> <p><u>平年比 やや多い</u></p> <p>平年比 やや少ない(発生を認めず)</p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p><u>平年比 多い</u></p> <p>平年並(発生を認めず)</p> <p>例年並(発生を認めず)</p>

◎ ほうれんそう ベと病

病徴と診断 : 葉の表面に黄白色・小斑点の病斑を生じ、のちに葉の大部分が淡黄色となって枯死し乾燥する。葉裏には、灰紫色・粉状のカビを生じる。病斑は開葉した外葉に発生することが多い。秋期に感染した場合は萎縮し奇形となる。

伝染経路

と発病条件 : 病原菌は被害葉とともに菌糸の形で越冬する。翌年、気温の上昇とともに分生胞子を形成し、飛散・伝染する。種子内部に保菌し伝染する場合もある。比較的低温で多湿条件で発生しやすい。

防除のポイント : ● 畦内の播種量を抑え、株間が多湿になるのを防ぐ。
● 薬剤防除は発病前に重点をおき葉裏にも薬剤が付着するように散布する。



葉表



葉裏

■ ほうれんそう ベと病 の防除体系 例

基本的には抵抗性品種の導入で対応。ただし、発病のリスクがある場合は播種前に **4(A1) 11(C3) ユニフォーム** [9kg/10a 1回] を全面土壌混和

予防散布に重点をおき

M01(M)

コサイド3000

[2000倍 - / -]

ドイツホルド-A

[500~1000倍 - / -]

Zホルド

[500倍 - / -]

40(H5)

レーバス

フロアブル

[2000倍
収穫3日前まで / 2回以内]

U17(U)

ピシロック フロアブル

[1000倍 収穫前日まで / 2回以内]

ローテーション散布

21(C4)

ランマン フロアブル

[2000倍
収穫3日前まで / 3回以内]

ライメイ フロアブル

[2000~4000倍
収穫7日前まで / 2回以内]

◎ アブラナ科野菜の害虫

ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)

ダイコン、ハクサイなどの成長点を食害する。

形態 : 成虫は翅の開張16mm前後で、灰褐色をしている。卵は1粒ずつ発芽したばかりのものに好んで産む。幼虫は成長すると体長14mm位となり、淡黄色の縦線が5~6本見られる。

生態と被害 : 普通4~5回発生であるが、6回発生することもある。越冬は加害作物の根ぎわで細長いマユの中で4~5齢幼虫で行う。5月中旬頃から出現し、8月に最も多くなる。一般に高温、少雨の年に多発する。発芽直後の被害は欠株となり、本葉3~4枚頃の加害では生長が止まり、奇形株となる。

防除のポイント : ● 8~9月の高温、乾燥の時や、早まきのものに多発する。本葉1~2枚の頃から防除する。



幼虫



■ だいこん ハイマダラノメイガの防除体系 例

播種時に

28

プリロツ 散剤 **オメガ**

[6kg/10a は種時 / 播溝土壌混和 1回以内]

OR

4A
28

アベイル 粒剤

[6kg/10a は種時 / 播溝土壌混和 1回以内]

発生が認められたら

30

グレース 乳剤 [2000~3000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内]

プロフレ SC [2000~4000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

5

ディアナ SC

[2500~5000倍 収穫前日まで / 2回以内]

28

ベネビア OD

[2000~4000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

ヨーバル フロアブル

[2500~5000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

ローテーション 散布

6

アフーム 乳剤 [2000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内]

アキ 乳剤

[1000~2000倍 / 収穫3日前まで / 3回以内]

21A
F:39(C1)

ハチハチ 乳剤

[2000倍 / 収穫30日前まで / 1回以内]

15

カスケード 乳剤

[2000~4000倍 / 収穫14日前まで / 3回以内]